

## 週刊 女川湾海況速報 (No.30)

発行：東北大学女川フィールドセンター

東北大学マリンサイエンス復興支援室

2 月 12 日から 15 日の小乗南防波堤定点と St.1 の海洋観測情報

## 観測点



## 小乗南防波堤定点の結果

①水温・塩分：先週と比較して水温は全層で下降したが、経時的にはほぼ一定（7.0～7.1℃）。塩分は先週と比較して表層（0m）で下降したが、底層（5m）では同程度の 33.4～33.7 パーミルを維持。経時的には 14 日に全層で下降。この塩分の下降は降水の影響と推定。

水深 [m]	2月12日 (火)	2月13日 (水)	2月14日 (木)	2月15日 (金)
0	7.0 (33.7)	7.0 (33.5)	7.1 (33.4)	7.0 (33.5)
5	7.1 (33.7)	7.1 (33.7)	7.1 (33.4)	7.1 (33.7)

水温の単位は℃。カッコ内の塩分の単位はパーミル（千分率）。1 パーミル = 1PSU（実用塩分単位）。

\* 15 日は水深 6m のデータを使用。

②濁度：先週と比較しても経時的にも全層で上昇傾向。特に 15 日には全層で 3.4FTU 以上の顕著な上昇。（単位は FTU）

水深 [m]	2月12日 (火)	2月13日 (水)	2月14日 (木)	2月15日 (金)
0	0.6	0.5	0.9	4.3
5	0.9	1.4	1.3	6.1

③溶存酸素：先週と比較して全層で上昇し、10mg/l 台を示した。経時的には 13 日と 15 日に全層で 0.1～0.5mg/l 下降。

水深 [m]	2月12日 (火)	2月13日 (水)	2月14日 (木)	2月15日 (金)
0	10.5	10.2	10.5	10.0
5	10.4	10.1	10.3	10.2

単位は mg/l。水産用水基準（水産動植物が正常に生息および繁殖ができる値）：4.3mg/l 以上。

## St.1 の結果

水温、塩分はそれぞれ 7.1～7.2℃、33.6～33.7 パーミルの範囲にあり、鉛直的には水深とともに上昇傾向。10m 以深の 33.7 パーミルの高塩分水は外洋水と推定。濁度は 0.6～0.8FTU の範囲にあり、表層で最大。溶存酸素は 11.6～12.3mg/l の範囲にあり、底層（18m）で最小。

2月14日

水深 [m]	水温 [℃]	塩分 [パーミル]	濁度 [FTU]	溶存酸素 [mg/l]
0	7.1	33.6	0.8	12.3
5	7.1	33.6	0.7	11.9
10	7.1	33.7	0.7	11.7
15	7.2	33.7	0.6	11.7
18	7.2	33.7	0.6	11.6

本データの利用については、  
東北大学マリンサイエンス復興支援室

Tel.: 022-717-8827

Fax: 022-717-8828

E-mail:

[agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp](mailto:agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp)

までお問い合わせください。